

# 改ざん念入り

## 「字きれい過ぎる」書き直し

大者  
医大  
女子  
疑容  
尾京  
瀬東

東京女子医大病院の心臓手術ミス・改ざん事件で、担当医の瀬尾和宏容疑者(46)が、人工心肺担当の佐藤一樹容疑者(38)の指示で改ざんした作動記録用紙を見て「文字がきれいすぎて不自然だ」と、再度書き直させていたことが分かった。瀬尾容疑者は看護師長にも「おれが責任を持つから」と強引に看護記録の内容を書き換えさせており、ミス隠しに躍起になっていた状況が浮かんできた。

関係者によると、人工心肺装置の作動記録が改ざんされたのは、手術を受けた群馬県高崎市の平柳明香さん(当時12歳)が亡くなった3日後の昨年3月8日午前11時ごろ。病院の医師控室で瀬尾容疑者Ⅱ証拠隠滅容疑で逮捕、人工心肺装置を操作した佐藤容疑者Ⅱ業務

上過失致死容疑で逮捕Ⅱと執刀医の3人が、手術ミスを隠すために人工心肺装置の作動記録などを改ざんすることを話し合った。しかし、執刀医は「できません」と拒否し、控室を退席したという。このため、瀬尾容疑者らは人工心肺装置担当の臨床工学技士(31)Ⅱ証拠隠滅容疑で書類送検Ⅱを控室に呼び出し、瀬尾容疑者が人工心肺装置の下ラブルで明香さんに脳障害が起きたことを隠すよう頼んだ。さらに佐藤容疑者が、記録用紙の改ざんする部分に鉛筆で印を付け、明香さんの脳障害を抑えるために行った「クーリング」(低体温療法)の記述を削ったり、実際より高い体温を書くよう具体的に指示したという。

また、瀬尾容疑者は看護記録について、瞳孔の大きさを小さく書き換えるよう複数の看護師に指示したが、断られた。看護師長(54)Ⅱ証拠隠滅容疑で書類送検Ⅱに「(隠れ)が発覚して」何かあったらどうしてくれるのですか」と言われ、瀬尾容疑者は「その時はおれが責任を取る。頼むからやってくれ」と告げ、強引に改ざんさせたという。

女子医大小児心臓手術事故  
改竄

2002年7月7日 毎日新聞